柏崎刈羽原子力発電所７号機における
漏えい燃料発生に係る原因および今後の対応について（報告書）の
新潟県、柏崎市ならびに刈羽村への提出について

平成 21 年 9 月 14 日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

当社は、柏崎刈羽原子力発電所７号機について、現在、出力抑制法*により漏えい燃料からの放射性物質の漏えいを抑制した状態でプラントの運転を継続しております。

本日、本件に関して、新潟県、柏崎市ならびに刈羽村よりいただいております要請(「柏崎刈羽原子力発電所７号機の高感度オフガスモニター指示値上昇への対応について（平成 21 年７月 24 日付)」）にもとづき、漏えい燃料発生の原因および今後の対応､現在までのプラント運転状況について、改めて報告書としてとりまとめ提出いたしましたのでお知らせいたします。

なお、９月下旬に原子炉を停止するまでの間は、引き続き安全を第一に監視強化を継続し、漏えい燃料近傍の制御棒を挿入した状態で、漏えい燃料の出力抑制が適切に行われていることを確認してまいりますが、監視の中で異常が確認された場合や燃料被覆管の損傷の拡大が疑われる場合には、速やかにプラントを停止することといたします。

以　上

＜添付資料＞

・柏崎刈羽原子力発電所７号機漏えい燃料発生に係る原因および今後の対応について

＊　**出力抑制法**

プラントの運転中に漏えい燃料が発生した場合、プラントの出力を抑制した状態で制御棒を操作し、その際の高感度オフガスモニタの値を把握することで、漏えい燃料が装荷されている範囲を特定できる。また、特定された漏えい燃料周辺の制御棒を挿入して出力を抑制したうえで、定格出力で安定した運転を継続することが可能で、過去にも出力抑制法を用いて運転を継続した実績が多数ある。